

投資事業評価調書 (新規)

課室名	道路保全課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路保全課長 京谷 幸一 (土居 康成)	内線	4 3 8 9 (4 3 9 9)
-----	-------	---------------------	-------------------------	----	------------------------

事業種目	交通安全 施設整備	事業名	事業区間	総事業費	約 2 . 1 億円
		特定交通安全施設等 整備事業 (一) 姫路環状線	姫路市飾磨区城南町		
所在地				着工予定年度	完成予定年度
姫路市飾磨区城南町				平成 14 年度	平成 17 年度

事業目的	事業内容
交通安全対策 植樹帯の切れ目から進入する二輪車と自転車等との接触事故の削減（歩車道境界の明確化）や、歩行空間のバリアフリー化（段差解消、植樹柵撤去等）を図るために、自転車歩行者道として再整備を行い、交通安全対策を推進する。	自転車歩行者道整備（両側） L = 8 9 0 m W = 4 . 0 (5 . 0) m

評価視点	評価内容
(1) 必要性 快適性・ゆとり	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車交通量、歩行者交通量、自転車交通量が多い (自動車 4,936 台/日、歩行者 453 人/日、自転車 469 台/日) ・学童・園児の交通量 (104 人/日) ・過去 5 年間の歩行者・自転車の交通事故件数 (10 件) ・植樹帯の切れ目から自転車道へ進入する二輪車と自転車等との接触事故。 ・死傷事故率 (167 人億台 km) ・市街化区域の D I D (人口集中地区) 内にあり、沿道の用途地域は近隣商業地域、第 1 種住居地域に指定されている。 ・周辺には J R 英賀保駅 (乗降客約 9,000 人)、英賀保小学校 (約 300m) が、沿道にはマンション、店舗、住宅等があり、通勤、通学等の多様な通行状況である。 ・姫路商業高校等の高校生が通学している。 ・英賀保小学校の通学路に指定されている。 ・歩行空間を広げるバリアフリー化 (植樹柵の撤去、段差解消) ・幅広歩道の整備。 ・地元から事業化要望あり
その他	
(2) 有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者・自転車の安全が確保され、投資効果が期待できる。 ・現道幅の中での質的な改良事業。
効率性	
(3) 環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・植樹柵の撤去、段差解消、透水性舗装の採用により、道路交通環境の改善が図られる。
(4) 優先性	<p>当該箇所は、市街地の D I D 地区で沿道にはマンション、店舗、住宅等が連担し、周辺には J R 英賀保駅、英賀保小学校があることから、多様な通行状況である。自動車、歩行者、自転車の交通量が多いが、歩行空間が狭いことによる自転車と歩行者との輻輳や植樹帯の切れ目から進入する二輪車と自転車等との接触事故が多発していることから、自転車道と歩道との段差解消や植樹柵の撤去を図るとともに、歩車道境界を明確にする自転車歩行者道の整備を行う必要がある。</p>

評価 の結果	着手妥当	左 の 理 由	上記内容により着手が妥当と認められた。
-----------	------	------------------	---------------------